NIE実践報告

1．タイトル：がい数をさがそう

2．学校名

栃木県日光市立栗山小学校

3．実践者名（代表者名）

芳賀智一

4．学年

第４学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

算数　１名

6．単元（本時の学習課題）名

がい数

7．目標（狙い）

概数の意味や新聞を調べることで概数が身近で使われていることを理解し、目的に応じて概数を求めたり四則計算の見積もりをしたりすることができるようにする。

8．評価の視点

概数にすることができたか。また、和差積商を概数を用いて見積もることができたか？

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「がい数」（教科書教材：教育出版）『算数：７時間』

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①概数の意味、概数が用いられる場面と概数を用いる良さの理解、数直線の用語の理解をする。（１時間）
②四捨五入の意味を知り、よさを理解し、方法を知る。（２時間）
③四捨五入をしてできる数の元の数の範囲を数直線から考え、求める。（２時間）
④身近で使われている概数を探す。（発展的な課題　２時間）
　④－１　概数の表し方を調べる。（１時間）
　　・辞書やインターネットで教科書で扱う「およそ」「約」以外の「～」「ほぼ」などの表し方を調べた。
　④－２　概数が身近で使われている場面を探す。（１時間）
　　・前時に調べた表し方を新聞１日分でどのくらい使われているのかを調べた。
（留意点）児童にとっては算数の答えは、ぴったり合わないといけないという思いがある。四捨五入をする桁によって求める答えが変わることの理解がし辛いようだったので、日常的に使われていることを知らせる必要を感じ、④の時間を設定した。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

概数で表す言葉や方法がたくさんあることに気づいたり、日頃、概数を意識せずに使っていた言葉や表し方が概数だと知ったりして驚いていた。また、一日の新聞に１００以上使われていることを知り、概数が日常的に使われていることに驚いていた。

12．成果と課題

算数で学習したことが、実際の生活の中で使えたり、実際に使われている場面に触れたりすることは、とても大切なことだと考えている。特に、この概数の学習を、難しいと感じていた児童が身近なところで多く使われていることを知り、親しみがもてるようになったことが良かった。新聞が児童にとって一つの規準になっていることがわかったことも成果だと感じている。